

平成27年度 カンボジア王国シエムリアップ州教育研修使節団招へい事業報告

「なんと!」、セントレアへの飛行機の到着時刻が台風18号の知多半島上陸にピタリと重なり、1日遅れての訪日となりました。心配されたその後の日程においては、各訪問校・訪問施設、関係者の皆さん方の特段のご高配とご協力により、当初の予定通り、いやそれ以上の内容で充実した研修が実施できたと思っています。

〔訪問先〕

※コメントメモ

- 10日(木) セントレア→東栄温泉(昼食)→東栄中学校
〔全学級授業参観・社会科授業への参加〕
- 11日(金) 竹島小学校〔授業参観・懇談・給食〕→
蒲郡競艇場〔施設見学・レース見学〕→
蒲郡市役所〔市長・教育長表敬訪問〕
- 12日(土) 形原中学校〔体育大会参観・弁当〕→
市民会館〔運動会実施計画協議〕→
市民会館〔歓迎会〕
- 13日(日) 天の丸〔蒲郡市内俯瞰・昼食〕→ハウス見学→
生命の海科学館〔館内見学・万華鏡製作〕→
蒲郡港〔ヨット試乗〕
- 14日(月) 蒲郡中学校〔授業参観・対話集会・給食〕→
名古屋〔名古屋城・地下街・街並み〕
- 15日(火) セントレア(朝食)→カンボジア

・空港・道路が広い「完璧!」・緑、川の水がきれい
・教具の多さがすごい ・生徒が積極的で熱心

・複数の先生で丁寧に指導をしている ・初めて見るものばかり
・緊張したけど優しく親しみやすい

・選手も係もみんな真剣、遅れても最後まで一生懸命
・市長さんまで来てくれた、踊って歌って楽しかった

・予想以上に木が多い ・施設が広くて珍しいものばかり
・海がきれい、初めての船で気持ち良かった

・授業でも対話集会でも生徒が積極的すぎ ・念願の電車に乗れた、お城が白くてきれい、建物が高い

◇ 使節団の皆さんの訪日感想メモ

以下イニシャル：ニャック・サコン(N) シェン・ソクサン(SE) カーン・リリン(K) スーン・ソパリー(SU)

◇ 今回の訪日で一番印象に残っていることは？

〔N〕 訪問した学校の子どもたちが元気で、授業での発言が積極的 〔SE〕 教師も子どもも真剣で熱心 〔K〕 どの学校も施設や教具が整っている 〔SU〕 インフラ、特に道路がすごい。ルールを守って車が走っている

◇ 日本に来る前に思っていたことと、異なっていたことは？

〔N〕 素晴らしい国だと思っていたが、それよりもっともっと素晴らしい国だった 〔SE〕 高いビルが多く、水田などはないと思っていたが、小さい家も水田もたくさんあった 〔K〕 特別支援の学級など、教育の方法がとても多彩 〔SU〕 緑が少ないと思っていたが、野山の木々が多く水田もたくさんあった

◇ 日本の学校で参考になったことやカンボジアで取り組みたいことは？

〔N〕 カンボジアの生徒の学習意欲を高めたい。授業のやり方をもっと多彩にしたい 〔SE・K〕 日本の教育の方法のすべてを実現したい。カンボジアの伝統ゲームを取り入れ運動会をしたい 〔SU〕 運動会を全部の学校でやりたい

◇ 滞在中に気づいたこと、感じたことは？

〔N〕 とても安全な国、みんながルールを守り礼儀正しい 〔SE〕 日本人は協力し合っている。法律を守る国民だ 〔K〕 環境がよい(埃っぽくなく新鮮な感じ)。時間をきちっと守る 〔SU〕 電車、ヨットに乗れてよかった

◇ オアシス(支援者)に期待したいことは？

・今回ぐらいの日程がよい ・東栄中学校の職場体験学習が見たかった ・教具の充実に向けて支援してほしい

第3回シェムリアップ州教育研修使節団招聘事業を振り返って

思わぬ台風18号の愛知県直撃の影響を受け、急きょ日程を1日短縮する結果となった第3回招聘事業であったが、関係各位のご配慮、ご協力で、予想以上の成果を得て終えることができた。今回の事業内容に過去2回の実績を踏まえながら本事業の課題や今後の方向性を模索してみた。

① 使節団メンバーについて

20世紀末のマレーシア同様、現在のカンボジアにおいても「Look East!」である。とりわけ教育においては日本への羨望が強く、教育行政のリーダーは日本との交流の機会を待ち望んでいる。JST代表チア・ノル氏の推薦もあって、教育長・教育行政上級職員から順次校長、そして教諭へと人選されてきた経緯は、海外渡航の制限を受けている国ならではのスタイルと受け止めている。今回は運動会を実施するための実地見聞ということもありバイオン中学校教諭が2名加わっているが、日本での研修内容をより定着させるためには、小中学校の校長クラスを招聘することも一案である。このことは、シェムリアップ市教育長からもたびたび要請をうけていることであり、今後の課題として位置づけていく。

② 日程について

訪日日程は、教員中心の使節団を前提とした場合、現行のカンボジアの年度末休暇を利用した9月が妥当と考える。とりわけ、小中学校の運動会・体育大会を研修に加えるとするなら、自ずと9月中旬が最適である。昨年は9日間の日程で実施したが、「長くて疲れた!」の感想を受けた。正直、受入側の私たちも同様の感想を持った。今回並みの滞在5日か6日間で、彼らの感想からも妥当と考える。

③ 研修場所、内容について

研修場所については、蒲郡市、設楽町、東栄町及び関係各学校の格別なご厚意とご協力で充実した研修の場を提供いただいた。特に形原中学校では2日間の研修日程(第2回)であったり、特設授業を設けていただいたりした学校など、研修に加えて親善交流の場を工夫いただき使節団員にとっては思い出深い研修となっていた。教育行政の団員は公共の諸施設への関心も高いが、現場教員の多くは、「日本の学校では、なぜあのように活気ある授業ができているのか?」の課題意識に立って、特に日本の教師の教育への考え方、授業方法の多様性、そして授業を支える教具の工夫に関心をもって参観していた。彼らの課題に納得いくような回答を用意することができなかつたのではと思っているが、日本の学校現場の充実ぶりを感覚として受け止めたことは、今後の指導の起爆剤になっていくものと思っている。

今回の団員は、全員海外渡航が初めてであり、日本に関わる一般情報・知識も不足していた関係から、JR、名古屋の地下鉄の試乗を通して日本の生活様式を垣間見る機会を設け、大変好評であった。また、短い時間ではあったが、ブルーベリー栽培、ミカン栽培を目の当たりにしたことも農業国カンボジアの一国民として興味を湧き立たせていた。

④ 運営・対応について

本事業の運営について、事業費は本法人社員及び協賛者の特別寄付によって運営されてきている中、年々社員が増えていることや協賛者のご厚意が多くなってきており、なんとか現行の事業内容が実施できている。現地の要望としては、もっと多数の教員に機会を与えてほしいとの声が強いが、現状ではこの程度の規模が妥当と考える。ひとまず3年実施したことで一区切りをつけることも考えられるが、カンボジアに訪問できない社員にとっては国際交流の貴重な体験の場であったり本法人への参画意識を高める機会となったりで、加えて世間に対して本事業が本法人の広告塔にもなってきており、中心的な事業として当面継続すべきかな(?)、と思っている。ご意見を!

(文責 足立泰敏)